

令和6年第3回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 令和6年9月25日(水)

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 議員

答弁者 農政部長 水戸部 裕

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>五 米政策等について</p> <p>(一)道の認識と対応について</p> <p>米の全国的不足について、民間流通米の6月末在庫は156万tで、比較可能な1999年以降最小であり、9月半ばに2023年産米はなくなることが予想されました。</p> <p>国は米不足の要因に、南海トラフ地震の臨時情報による備蓄や一時的な消費の増加等をあげていますが、原因を消費者に転嫁するようなこういった説明には納得できません。</p> <p>2023年産水稻の作況指数は全国で101と平常並みだったにもかかわらず、米が手に入りにくくなったことは異常事態と言えます。</p> <p>食料安全保障の点からも由々しき事態と考えますが、道は、国に対して事態の改善に向けて対応を求めたのかお答えください。</p> <p>(二)米政策の見直しについて</p> <p>鈴木宜弘東京大学大学院特任教授は、これまでの米の生産調整から販売調整に切り替える必要があり、米の需要を作るために財政出動することも提言しています。</p> <p>主食である米を安定的に供給するべく、これまでの生産調整型の米政策を抜本的に見直し、米の生産を支えるよう国に求めるべきと考えますが、いかがですか。</p>	<p>(農政部長)</p> <p>米の品薄への対応などについてであります。昨年の高温などの影響によりまして、国内の米の供給量が減少したことに加え、パンや麺類の値上げに比べた値頃感やインバウンド需要の増加など様々な要因により新米が出回る前の端境期である8月には、全国的に米が品薄になったものと認識しております。</p> <p>このため、道では、国と連携を図りながら、道民の皆様に対し、SNSなどを通じて、必要な量を購入いただくよう、呼びかけたほか、道内の農業団体や集荷業者などに対し、早期出荷や円滑な流通の確保を申し入れたところでございます。</p> <p>また、道といたしましては、道内での米の需給状況などにつきまして、国と意見交換を行うとともに、全国的な稲の生育状況や在庫量、販売データなどの提供を受け、こうした情報をもとに、消費者の皆様様に安心していただけるよう、必要な情報発信に努めてきたところでございます。</p> <p>(農政部長)</p> <p>米の安定供給などについてであります。このたびの品薄を背景に、米の需給動向に関心が高まる中、全国有数の産地であります本道が、安定的に米を生産し、供給していくことが重要であります。</p> <p>このため、道では、関係機関・団体と連携をして、需要に応じた米生産の推進に向け、国による需給の見通しや北海道米の販売計画などを踏まえた「生産の目安」を設定し、国の交付金などを効果的に活用しながら、主食用をはじめ、加工や米粉、さらには輸出を含め、多様なニーズに応えた生産に取り組んでいるところでございます。</p> <p>また、国に対し、米の安定供給に向け、複数年契約の推進など計画的な生産・販売に対する支援をはじめ、基盤整備やスマート農業技術の導入、新たな品種の開発など生産性の向上や省力化に必要な予算の確保を求め、北海道米の生産力の強化に努めてまいります。</p>